

門 送 1278
號 卷 1-40

利田

利田

利田

此編最就於倉卒之際。及命工繕梓。未有自
 序也。而書賈又巧之。誅求如債。將綴數行。以
 塞其責。方是之時。毛穎氏致仕。日先生
 之未至。卒然搜破篋。不
 吾藏弄之物。平義秀尺牘
 歷歷由來存焉。既已
 猶如。有神知吾
 代序辭。聊
 曰。名士本
 之使閱者
 文化甲戌冬

去冬粒方年

方以秋觀

守好秋

之

百義齊

公國

人各始あり。よその終りたれと鮮。夫始あり。終るべき世以下。漢唐人。庸人の名をえを機。臨るく用る所。但戦國の勇士の志。君を練めり。後世代。亡命。又四傾。城陷。日千軍。萬馬。殺。一條の血路を。因死。或は借て。自焼。屍を焦土の中。示す。この終り。山。隱る。夷狄。又まり。又人間。又還る。唐の。是の終る。敵をえく。苟も死。とせ。脱とんと。とき。命と全と。恥。雪んと。あふ。志よ。と。人言。天。機。又い。ゆ。あふ。跡を暗し。影を埋め。形と。変名。或改め。禽獸。と。群居。山。経。老。死。せ。抑。幾人。之。今。軍紀。又。野。數人。又。過。所。平。惟。盛。源。義。經。朝。夷。義。秀。藤。藤。房。篠。塚。伊。賀。の。如。死。逃。走。く。勇。と。せ。い。その。迹。方。後。る。亦。千。載。の。遺。憾。也。野。史。ふる。義。秀。篠。塚。小。至。又。その。終。り。の。ほ。予。の

二勇士のふく假托。四字小説を他設く。彼長物を獲く。多の年。あつて。果さば。春。又。又。思ひ起。や。春。の。り。ち。名。つ。け。朝。夷。巡。嶋。記。記。及。諸。軍。紀。又。据。る。ゆ。め。あ。つ。と。又。草。紙。小。勇。力。監。と。い。ふ。の。あ。ま。と。推。と。の。隱。と。の。後。世。又。述。る。大。事。代。古。人。小。獲。ひ。を。今。人。又。述。と。は。又。釋。氏。を。り。て。短。し。せ。が。る。死。る。ゆ。め。あ。ま。と。自。白。の。文。勸。り。悪。武。懲。を。善。巧。方。便。と。い。ふ。今。茲。ハ。夏。小。恙。あり。あ。ま。と。筆。硯。又。親。と。時。後。と。い。ふ。直。の。筋。の。誤。脱。を。補。ふ。暇。も。あ。ら。ず。そ。の。又。あ。つ。と。の。り。浪。速。人。の。需。又。心。を。筆。集。五。卷。の。繪。を。も。く。の。の。ち。を。也。

朝夷巡嶋記全傳初輯總目錄

第一條

栗津

六出

鎌倉山鼠麴

第二條

月夜竊立

野嶋船

第三條

遠山寺兒櫻

山脚

第四條

濱驛館蒲黃

修善寺奔湯

第五條

絲奈幡太薄

促死秋蟄居

第六條

截落刀野帝

返汝湯崑檜

第七條

林坂牛奔車

榎虛崑崙佛

第八條

歸郷野邊送

復讐記念刀

第九條

朝靄庄司暎

夕立許我郷

第十條

在旅宿元服

大石山遺弓

通計一十條一帙五卷初輯目錄終

朝夷三郎平朝臣義秀

英聲 懷絶 域 勇敢 鎮窮 邊



心くちうはま

まけあふ山乃

心くちう隈

心くちう隈

心くちう隈

あまみ

あまみ

あまみ

著作書





吹風乃
うきろく
あきあか
あつらひ
かえろと
人の
きむ
福に

源
頼朝
臣



江
三
三
歳
九

奮
勇
全
遺
腹
走
殺
軀
文

勇
頼朝
繪



源
頼朝
繪

山の主魔平太



庖丁の子也

ふり舞の袖をれい

いとさへ見せん

いさえは魚

處女坊

吉見冠者義邦

さくら山

さくら山

風流

あ久

あ久

あ久

あ久

あ久

あ久

あ久

あ久

あ久

侍魁権枝



温子権平



駿河前司源廣綱

下のやひのむき
 氷子成りけり
 守ふそとくた
 りんまは月

目見姫



み見乃
 乃に
 似たり
 人あり
 小
 のち
 あり
 あり
 あり
 あり

草子

目見姫

○卷端半頁の餘帝ありて學生要領の旨と録と符く四方君子の告なること如の如
家傳神女湯 一包百銅
此の化者家傳の良方婦人諸病の
神薬として産前産後のみち

即功ありさば小より相傳五世の如くて家小難産天折の婦人あること功多
用ひるにむらうとつと紙又あるらちを比ひのたまはくその功捷群自餘
賣前小たまさるるより小く求々君子少くはいと飲したるらん
つた虫のめ茶 一包十四 半包三十二 婦人毎月つたや小より多しつたひ
つらら小用ひくをぬへ又産後ありむらうむらうははまて月や産功を

精制衣奇應丸 查余入代計朱中包三十一 入代五 奇小包十一 代奇十一
世小きお丸多しといふ製方製麻ゆとやも極品をえらまはる奇應丸の名
ありといふとまき丸の功のほはる製法とるところ薬種ありといふと量とて
法小きといふ製法むつをあり見と下あつひの奇應丸ゆらむれその功百倍
諸病針灸ほとに療治毎月七日 九七日 見と下三日月と七日夜朝四日をとり
野中へ入ませるる物物のゆのちと見が宿れよりその師小坂先生出席点法は

右製薬弘所並施療 江元齋町中坊下南側四方を店向瀧澤氏精制製
取次所今大坂齋橋筋唐物町南入書林内大必△江元神明前書肆いも市兵衛
○招牌及報余能書必乾坤一草亭の印記あり此印あるは信者又係

目 畧 劑 賣 方 家 亭 曲

朝夷巡嶋記全傳卷之一

東都 曲亭主人編輯

初輯第一

栗津原の六出花
鎌倉山乃母子草

蓋世の勇由このむらうとむらうと經邦の智の誇る不足とて項羽のちうらうらと
拔た威權西楚の覇とてこの命運竟に究りては鳥江の水逝てつらむ
韓信が才漢祖を佐とてその功四百餘年小掩へと傲慢上と凌りては淮陰
の市暮て取らむと彼は城下の野戦は頸刎此は未央の宮闕小教せ
らば古を親と今とつらむと和漢その人又とつらむと抑征夷使の朝日將軍
從四位下伊豫守源朝臣木曾義仲の古春宮帯刀長義賢朝臣の
嫡男のりいぬる治承四年の夏四月高倉宮王以仁の令言小應と義兵と

同年の冬十月より戦ふ捷攻をとり。旗を華洛小推靡して平
氏を西海へ逐走し源家よの年の蟄懷を一時は開くのみは後白河
仙院と且く守護しなる。勲績莫大のしる官爵輒又祖の越く武の棟
梁と仰れらる。功は誇り勇と憑く君を蔑りたり。非礼狼藉大なる
綽篠倉小治之へ前武衛頼朝の臣朝敵義仲追討の院宣を賜ふ
舎才範頼義経と追討使と定めり。数万の東軍前駐しと鬼道瀬田
より上洛を時め元暦元年正月九日義仲これと防んとく。廷尉義廣四
郎兼平以下の精兵を両隊小こけ。少選防戦のり。不慮の合戦その
棧を襲ひ躬方と繞く軍兵を果敢る。華洛と落されて木曾殿
主後僅小七騎且戦ひ且まれども賊路を投くゆえにあつた。脱をく。西春の
雁列を素くと遺後と立羽音小信とんこせ。や長首彼首も充滿る。

敵はあつた粟津なる。森のほとり小治のひり瀬田の夕照は凍響る。雪の
花は落葉後れ先づの兼平本へ彼此小く隔らと大将一騎あり。あつた
のまはとも竹ゆせん。前面の芝生より互に腹を切らんと只管馬の足
搔とをもちつ。多ひる日を背後小せ。かた義も薄氷の際田馬を
乗にうと。拍どあつた。と。ゆるゆと。あつた。便る。と。文間暗んかへる。是乃
星月夜墮て石田。久。幾つ箭は額と項へ。四五寸。う。か。深。痕。は
小雲安時のゆ。壱を。鞍を。抱。れ。と。臥。の。小。義。仲。移。れ。の。ひ。ぬ。と。敵。の。軍。兵。馬。背
動。へ。今。井。根。井。指。錦。織。大。約。木。曾。殿。恩。顧。の。老。堂。義。小。仗。恥。を。と。る。と。
維。一。人。も。存。命。べ。れ。箭。の。竭。大。刀。へ。折。る。や。と。奮。怒。せ。定。戦。せ。と。の。
軍。の。中。小。治。れ。と。り。そ。が。中。小。當。今。一。の。勇。婦。と。彼。え。し。鞠。繪。八。四。郎。馬。背
妹。義。仲。朝。臣。の。側。室。と。り。こ。る。剛。者。と。北。國。數。度。の。戦。ひ。小。比。類。る。は。例。也。

ちくその名は都鄙は高き死。さしバテをあまこの日この時主後七騎
 ころるまでも柱は敵に殺散し。まきく先へ進み木曾殿とさるる
 義仲が軍期に軍小女入は先陣をさしつる。いかに人の朽惜るべし。か
 旗休の去年より懐きて今へもや目もくらなり。ひとり虎口へ殺脱し
 かくたふと幾遍う身の暇をのりど。鞘はのしちゆ退きと只其土音息
 のちん俱とあま回答ちりし。群立る大軍へ会釈ゆる突て入り。石拂大
 刀風ふ偃草血は浸さる。おる。枕は五騎三騎移れぬ敵のり
 けり。鞘はかこの日の打扮は紫格子と織る。直垂小菊緘を志げく
 崩黄威の肚甲は袖つけく。三尺五寸の大刀と佩廿四差く。圓羽の征箭の
 射遠く。谷まは脊負つ。重藤の弓は迫弦け。連続芦毛の駿馬の
 全覆輪の鞍もなく。燈長は弛哩とうち躑。丈はあまも思髪は後へ

さんとちりし。天巻と額は當白打出の笠仰及小著る。遠山の眉
 丹花の脣美目の容貌も朧園く。亨年すめ二十八現未曾有の勇婦を
 父のぬ小密状なり。夫を佐く。長と討る。東海の烈女の形名も妻のいさ
 こまふまはげた。頻は舌は振の。こまとくひたり。袖で大刀と合さる
 りのるを。敵食こま目をうけく。十重二十重は困る。鞘は主の
 先途はぬあつ。身は口一騎はかりぬけ。心はまきく。焦燥て近づく敵を
 踏みつけ。左は拂ひ。右は當り。を人御は入る。又十條の血路を開
 き。後へさと馳出る。あまをこれをはる。浩如。透間。追鬼。軍兵が
 氏内田三郎平季吉主後三騎馬をぬく。透間。追鬼。軍兵が
 信とええり。物。や。との。隨。響を引か。馳ちか。先へ進
 軍兵が。鎧の。総角。を。と。合。目。上。ま。く。さ。揚。夫。声。を。あ。る。人。礫。は。後。ま。く

進む軍兵が胸骨さへは打碎れ伏累も死でけり。主の内田のこれとて。大暗
 女が勇力多きさなりとてこれゆゑ又坂東の力士の。最前ふ二人を専ら
 怒りつ。阿容とてとてわづらひとて。後陣は進む甲斐源氏二條小太夫
 うん。この這廝万夫不當の勇ありとも。鬼神ゆゑもあは。六十人からう
 ありとて人も許せし。季吉が。日來の本事。何時とて期まへた。目小物をせんと
 澄と蹴ま。真一字よとせあらせ。名言れ。名告る。軍の古実互は知ると
 る。この大刀を抜き。箭も射うけ。よ。と組んと。這らぐ。馬の尾首推る。人
 利腕とさうと引組。當下内田へ逸。や。鞘絵が黒髪ゆき。腰刀を抜
 け。頭をぬくと。さ。ひ。と。鞘絵の驛。は。う。ち。微笑。達。死。和。主。が。拳。動。る。軍。の
 敵。よ。う。の。ぞ。嗚。呼。る。る。死。の。せ。と。も。あ。は。と。い。ひ。ん。く。笑。ひ。極。り。固。て。内。田。が
 臂。と。礮。と。打。う。と。思。ひ。を。指。を。開。く。刀。を。鼻。と。落。せ。し。鞘。絵。の。ゆ

と。と。揮。は。り。死。弓。の。腕。さ。伸。く。鬼。の。真。甲。と。り。誇。り。鞍。の。前。輪。の。通。者
 つ。内。鬼。よ。と。入。と。七。寸。五。分。の。腰。刀。を。見。と。抜。出。し。推。仰。け。く。細。頭。を
 放。蕩。と。ぬ。れ。ぬ。と。季。吉。既。に。移。れ。ぬ。敵。の。ゆ。ち。近。つ。う。と。只。八。方。より
 射。ぬ。る。箭。の。鞘。絵。の。馬。と。射。倒。さ。し。て。主。の。醫。術。居。し。撞。と。落。起。と。ま。る。武
 起。し。由。立。む。和。田。義。盛。本。を。り。累。も。く。矢。庭。は。中。武。け。と。り。け。り。さ。る。程。に
 軍。果。と。和。田。小。太。郎。義。盛。本。廻。侍。鞘。絵。を。ぬ。く。鎌。倉。へ。陣。せ。り。木。林
 五。郎。は。領。ら。し。び。切。ら。る。べ。し。と。ゆ。め。え。ぬ。と。義。盛。本。は。こ。と。を。惜。ま。て
 哀。れ。を。ん。る。が。命。を。助。ぐ。某。は。場。か。し。あ。り。あ。ぐ。ら。ん。と。中。二。三
 鎌。倉。殿。頼。朝。の。ゆ。ち。渠。の。女。流。と。い。ふ。あ。り。と。双。る。死。剛。の。ゆ。ち。の。ゆ。ち
 豫。と。聞。石。と。と。ろ。え。その。ゆ。ち。の。ゆ。ち。木。曾。が。股。肱。と。鳴。れ。る。中。二
 原。兼。遠。が。ぬ。ぬ。女。兒。今。井。四。郎。兼。平。が。ぬ。ぬ。女。兒。主。の。ぬ。ぬ。側。室。と。と。や

恩顧勇敢有斯君父の仇を報んとせざるこそあらうとて
 釋さるるのんとも一切許容るるりうどもあるはさるべし直宿者
 今只管小彼女をこまうとて別小仔細ゆらむと但枕席共は
 子孫を取らんぬえいつてう僻事いづれと辞を放ち身ふくえて
 老より久謙倉敷頼由今更小義盛が父祖三世の忠義よりひえ
 竟小恩免おりしを義盛大たはせむと懸て鞠絵をこまうとて
 所へ侍ひたり却義盛盛のころをゆる老女們と鞠絵を勤り耐
 自由又衣裳整え改めて對面さそのころ私の宿恨あること
 ろり躬方とあると女夫の経るものと今又は何ともしむべ
 和女郎が柱ひゆるものと小愛香小成むと浮く縁一
 結んとふあがむおのけり夫婦ふかりて勇と子孫小送んぬの
 才中既君父の志の致しとて必成辭ひと長盛が仇候と死
 と正首小相續ハ鞠絵ハ貌を更めとあつてとつたこと過世
 因縁と老よりとも忠臣ハ二君小仕む貞女のころ両夫小見
 破んと死しと世恥るるたてととけとととけりゆらるる小
 老らぬ小仙より死んぬといふと昔の母も負うて妻も亦亡
 あらふとと幸念ふといひがじ傷の人を遠離めといふは義
 老女們を退せその情由を問へ鞠絵ハ頻り小嗟嘆しゆゆ
 勇士和の漢もろく小その子の親は劣りけりやととと父の
 小の肯げといふと小こころは産せとてその甲斐なるか後悔
 兼引く死つて加禰が腹の小曾敷の亂を宿しとてち四個
 角とらふらるるまの流石は惜し命とるるとも他また仇
 身と任せが

い
 月長門抄巻一

この故に、おん素より嫡妻あり。又西個の子ともあり。又後、御子と云ふ。

 妬も、御護。この素より死に、つるなり。誠妻と憐み、妹はといふ名。

 あり。小夜の枕を共小せび、生るを見、子をとり、子も、前之。

 つる、らん力か、仇候と仇、せせと、女も、節操を破る。恩、小。

 子、夫婦血を分、枕をるる、つる。る、海、響く、つる、ら。つる、ら。

 今、面り、小刃、小伏て、刃を、隠く、さる、より、外、私、死、正、つる、む。と、多、入、回、答。

 志、盛、羨、感、嘆、つる、所、道、程、不、稱、つる。初、念、へ、思、ひ、つる、ら。謙、倉、殿、小。

 指、と、さ、と、と、その、胸、若。と、その、あ、と、と、内、の、内、を、さ、る、人、を、さ、る、の、號、む、ら。

 妻、と、呼、入、良、人、と、齊、眉、め、り。その、子、の、源、氏、の、嫡、流、も、り。と、又、の、朝、臣、の、朝、敵、と。

 明、地、吹、披、露、さ、る、に、義、盛、が、子、と、せ、ん、と、固、つる。望、む、死、ら、つる。易、く、わ、ら、ひ。

 ぬ、と、親、の、諾、ひ、か、靴、袋、へ、感、涙、拭、ひ、あ、き。お、し、お、し、義、盛、が、使、く、り、お、し、小。

 や、安、堵、く、見、より、ま、ふ、二、鞋、の、室、の、む、も、隔、る、さ。お、の、ち、あ、つ。陽、を、り。妻、と。

 ぬ、る、日、を、送、り、ぬ、却、説、春、暮、夏、も、く。その、七、月、の、中、院、有、一、日、靴、袋、へ、産、の。

 け、つ、つ、で、男、子、誕、生、さ、る、ら、く、義、盛、珠、又、飲、む。あ、の、こ、が、家、の、三、郎、な、れ、今。

 朝、の、由、日、と、も、ぬ、初、声、を、揚、つ、ら、れ、と、と、朝、日、將、軍、の、亂、わ、り、より、代。

 頭、の、の、狀、と、ら、る、ら、も、ん、ば、そ、が、お、し、小、阿、三、丸、と、名、つ、け、が、月、比、此、子、け、し、か。

 且、人、又、さ、ら、せ、び、この、年、冬、も、ら、つ、ば、な、り、て、三、男、を、産、せ、し、と、親、族、朋。

 友、小、告、さ、る、五、十、日、百、日、の、祝、は、酒、宴、く、お、び、お、し、お、し、お、し、親、さ。

 の、の、伴、の、赤、子、を、毛、仲、の、遺、腹、子、と、誰、ら、さ、ら、ん、只、義、盛、が、の、ち、を、や、産。

 せ、し、の、と、お、し、ひ、り。さ、る、程、は、阿、三、丸、の、質、弱、多、病、ゆ、え、も、あ、ら、ば、夜、小、日、は。

 うち、夏の、く、く。三、才、の、あ、つ、つ、ぐ、お、も、ゆ、い、ら、む、況、や、一、室、の、内、に、め、め、這。

あつくと瓜せむしと人食傷さくどむと。啞子やあつん。覺ゆやたつん。
 生きた憑一うらむとく。指一矢ふめさるあれ。義盛のいどく。あつんく
 多んがのづから。愛さるるろろるりけり。現るひ内ふある。人の気色の凄ど
 くて。鞠絵の宵月五雲霧のふる月日の形あり。又うち歎く夕ぐと小乳母
 葉の由賺ふてや。阿三九がゆといと。むつくる声のまてけむ。たてもこ
 てたこ子うる。渠ゆえふて母の形。あつんかとさるまじや。とむつろりひのこ
 ぐひるまじと。いゆたてえんと。とまお。長盛の女立里く。鞠絵をゆて。あま
 りる空の内へ招たよせ。いふまじく。ていつく。嘆息く。さそりかや。豫
 よるさひみくこと。急くべたてゆめあつん。さる傷の人。いふまじく。役なく。さ
 まで。黙止たり。ことつくと。阿三九が生きた。推量は。武士ふるるべた
 のふあつん。獅子の生とる。がう。小く。奮振の勢ひあり。蛇一才ふりく。

そのれ。我頭。そとゆめあつん。あつん。あつん。あつん。あつん。あつん。あつん。あつん。あつん。
 せむ。あつん。あつん。あつん。あつん。あつん。あつん。あつん。あつん。
 勇士の子ゆ。嗚呼。あつん。あつん。あつん。あつん。あつん。あつん。あつん。あつん。
 あつん。あつん。あつん。あつん。あつん。あつん。あつん。あつん。
 見を法師とせん。とあつん。一子。あつん。あつん。あつん。あつん。あつん。あつん。あつん。あつん。
 親の善根を。あつん。あつん。あつん。あつん。あつん。あつん。あつん。あつん。
 戒刀を。あつん。あつん。あつん。あつん。あつん。あつん。あつん。あつん。
 佐敷朝相。あつん。あつん。あつん。あつん。あつん。あつん。あつん。あつん。
 忠義を。あつん。あつん。あつん。あつん。あつん。あつん。あつん。あつん。
 不勤之。あつん。あつん。あつん。あつん。あつん。あつん。あつん。あつん。
 利迦羅丸。あつん。あつん。あつん。あつん。あつん。あつん。あつん。あつん。

あり子とくくる三歳の小児のるは出家と勤る牽出物とてまよふは抱やりのあはる。
 相摸ある和田の岬の義盛が采地なり。彼知るの女僧院あり。その子と乳母小
 抱く。翌の岬へ赴たる人後まよても親子が夜食のせりく贈りまはるべし。その
 子が得度まるとまよての末途するところから。さうら口口のうるさむこころ成るま
 如此とらひぬ。こころなるまよとり多ひと。正首小説示。かをやとて朝小納て
 妻がなるとり小園たぐ。衝と刃を起しと知ぬ。朝給の額をわさげてうち
 受くぬるは浅す。若くは白月の浮雲小憑む樹下雨を漏るこの世の假乃坐
 やり。長くもあはぬ命とる豫くとと又さうぬ。さうぬとえ終を究るつら
 子舎へとく立ちまら啼く。むれく熟睡せ。阿三丸小枕させ夜赤緒くる
 俣ふして乳母葉のむらりけり。現人世の榮枯得失今まよるぬえころのがら。
 木曾殿亡させぬのまら野の人冊と金の几玉の床綾羅小綿袴ふやとて。

寢室まりのあひる稚子るとも襦袢より。謙倉武士の季子と生中要り
 ころころ小癩人としてわらわらとよ小憚る。前世の報とてとさうあて抱た
 揚膝は載揺動してまよる。是ぬ寢白雲安時うち熟視る。西由東もまらぬ
 子小ひまらと抱成りつらとて竹城う辨めふべし。のく益るたところ。浮世
 の美理の柵ふらる。影のわらわらく夏ふのそる命ぞと。多ひ終ては假寐の夢
 ありんか。まよる。まよる。後世かひりたり。抑吾情枕付つら成りぬ。
 身と汚さむとまよる。月日と送る。稚子と入せんぬえ。まよる。あはる。あはる。
 蛭見の神小異なり。三年孫るまよる。足立まよる。あはる。あはる。あはる。
 やら流さるとえその千劍振神の代子と捨ぬひ。親心ひまら。あはる。あはる。
 茅原曲ふまらぬ。まよる。子に恙る。西の宮難波の浦。跡垂と。まよる。あはる。
 つけくまらぬ。まよる。子に親の何がたる。まよる。あはる。あはる。あはる。

俱利伽羅の
戒刀暗
不
母子を潔き

明鏡刀編卷一



為家卿

かき木あゆ
たのきれ斧の
柄をとるよ
かりむさうきぬ
世そつかけ終



草言

世の終

世の終

皇別る。ちん又君ふアそ及び子。和田ハ桓武の後胤る。且んあ方か養父と養母
とも。ちんうめらぬ武士とどひ一とらそらうめめく。法師あせよとのりこ
そ直成恨とくこれ死ん。ちん方め共ぬとのめあはる。隠はとこれど人由
ある彼アそ木曾が落胤よ。母の鞠絵が縁は連く。長盛が子ぬる。いと実父
の悪業報ひする。あもゆいりぞ足く。と愛を養父又失ひ。世あゆめ
疎とく。法師はうのぬと力なく。指一矢り人の口ふ。戸かまらま。四阿乃
間屋の廂と住棄く。方とちんは養母とも。ちん方むらり。恥るら。びと
君の名を降さん。朽をあぶるるら。びと。ちん母なる。面あ。と
るハ化野の草の原る。主親よひひとく。うもる。衣方の幅。陸は世あ。び
らふ。そでうた人よ。妻といふ。その名をうり。成貸小袖。年ふ。一度も肌觸は。あ
つけ。る。帯の曲。結び。一。ま。小。妹。と。使。の。枕。へ。絡。く。並。緒。と。む。り。寝。と。て。ら。り。

火のあじとらあ。よ。も。る。死。母。が。憾。を。と。ひ。汲。く。才。あ。る。流。水。の。う。ら。親。あ。る
か。め。あ。ひ。そ。と。覺。る。人。よ。い。と。く。口。説。る。有。也。也。の。関。ふ。人。目。と。博。と。が
声。ア。そ。う。後。音。あ。泣。く。た。の。ち。ち。子。一。滴。悍。死。ら。る。恩。愛。あ。脆。は。袖。の。露
の。玉。白。月。あ。碎。る。歎。死。せ。り。且。く。成。成。擡。う。る。死。脚。言。人。や。ま。く。女。ち。り。と。も。成
門。よ。ま。ま。と。く。勇。悍。と。人。よ。い。と。こ。る。こ。い。い。ゆ。ま。き。ひ。え。流。水。の。逝。て。あ。ら。び
往。復。の。悔。て。及。び。一。念。稱。名。平。等。利。益。十。惡。消。滅。即。身。成。仏。南。無。阿。彌。陀。仏
と。念。ぶ。右。の。小。刀。と。抜。とり。て。膝。又。却。て。稚。児。の。胸。前。左。の。小。推。著。て。刺。殺
さんと。さる。形。又。苦。と。叫。び。く。膝。の上。より。滾。落。る。引。よ。と。る。背。後。の。紙。門
蹴。む。た。た。く。や。よ。符。あ。と。禁。め。あ。へ。ど。美。す。又。携。る。葉。子。へ。さ。く。の。伝。聲
と。と。と。振。拂。ふ。袖。の。下。より。緒。ひ。成。掛。く。阿。三。九。と。奪。め。か。と。く。倒。は。抱。き。と。り
たる。生。死。の。隔。遠。迷。ひ。く。起。つ。居。つ。膝。ハ。戦。く。涼。鳥。の。羽。と。傷。ら。ま。一。風。情。め。て

抱き締まらばよと泣く幼主を横はて。衣領をむらけが乳は推乃や。嘔ふとやどて
 敲え著る。乳母も共は声を吞て泣より外へ去る。若くは朝絵のころか。此處
 洩りやせんと亮隔を引よむ。やよ葉の縁故は告げざる。駭かぬせん。白日の
 泣きん。林の枝憎しとらねど親とて子を殺す。什麼苟且のりやうんや。
 明地ゆらひく。泣く人とも。色ゆめゆめ益る。泣く人とも。その子を
 措て疾退す。連係せらる。後悔する。とらひく。刀をとり直す。あはれ
 よせと。身を指小。背向より。て声をぬら。情由をゆゑら。禁る。彼と
 思ふ。百さば。そのあ。うん。和子のう。より。支起り。あ。の。殿の。仰せ。る。も。
 和君が。む。より。ご。ら。の。緯の。顛末。不意。彼。如。又。寤。夢。たり。ゆ。た。ぬ。さ。う。悍。く
 かり。ま。母。の。必。死。と。多。ひ。決。め。の。理。り。逼。て。る。く。小。林。の。枝。鳴。呼。べ。と。思。ふ。百。へ
 さ。う。さ。う。が。ら。滲。り。の。側。視。八。目。黒。白。別。ぬ。こ。ら。の。ゆ。な。ま。と。ど。縁。あ。ら。ば。こ。と。襪。襪

より。乳母も。あ。り。と。や。三。年。その。美。と。い。は。主。後。入。滅。と。推。せ。恩。愛。の。奴。と。り。て
 且昔。香。の。世。の。珠。鬢。の。花。塵。さ。を。え。は。子。和。子。の。必。死。を。外。へ。よ。連。係。さ。せ。れ
 そ。と。直。つ。て。を。憾。る。也。和。子。の。虚。弱。ま。り。母。が。支。給。由。お。り。と。世。の。俵。子。より
 晩。苗。ゆ。り。然。と。く。人。の。い。ふ。と。生涯。お。と。さ。ん。や。物。こ。ろ。れ。の。誣。言。お。さ。れ
 む。ひ。さ。る。大。刀。袷。あ。の。い。ふ。ひ。さ。る。と。も。出家。欲。せ。る。ひ。さ。る。と。は。預。け。多。く。舊。言
 里。へ。お。供。し。く。適。男。子。は。は。は。ゆ。り。田。舎。の。壤。は。足。踏。固。めて。牛。も。突。き。は。馬
 め。も。躓。と。の。実。肥。て。骨。逞。し。く。徒。男。より。ぬ。と。ゆ。め。さ。う。の。殿。の。悔。し。く。思。言。て。さ。う
 さ。う。や。い。こ。の。う。ん。こ。の。う。ん。が。良。人。の。安。房。四。朝。東。郡。ち。る。大。踏。浅。江。の。農。父。あ。い。い。時
 六。と。ゆ。め。ゆ。り。いと。會。へ。ん。は。は。と。も。人。の。ぬ。め。骨。を。折。心。を。入。と。く。恩。と。お。さ。れ。と
 憑。志。ま。き。の。る。が。ら。過。世。と。う。と。病。危。ひ。一。年。あ。り。う。ち。お。し。り。杖。乃。調。は。債。ら
 せ。て。い。と。せ。ん。さ。る。り。し。く。その。夏。奉。一。女。を。親。を。と。び。と。り。の。り。の。よ。

上総の人又養をせしむる遠く乳を售てこの鎌倉へ來りぬたて良人の
病著平命なり。今も母を養ふたよりをりく音耗たりし母也前より共
安房へ赴た多人は波風騒ぐ世とく。港口の出船日ぬあり。峯れ嵐ちりき
とも枯る木ぬ花用は力のるる果といそぐ。後の榮を待たぬは
聴きびの惜けくもあらぬ命なり。和子りろは死むや。とぞより外は
口説つ泣つ引提。刃背つた有る。誠忠を乞ふ願れ。日来お似げるは
言ふ慚く朝給はるる。涙を涙とひろは合る刃を身理と棄てその刃
其知不礎と坐。葉子微ゆひつる。乳母の親は異るる。恩愛不絆されて
刃の下より刃を磨く。憑くとのもあまりあり。況やこれの子の母憎く
鬼も去く。正つた奉動や。たてた焼野の堆。夜の鶴。凡生とく活る物子と
るたせろる小母が。つづり子と殺さば。そも人の道る。びと考らるるのち

唇と指して。残りるん。残らば。残と云夫の家ゆせれ。習浴へ親子り。た阿容と
法師あるが。後この残の口。今丸と殺を悲しむ。おや。はとあらん。これのよ。は
まられ。る。その。小匿び。づ。う。も。あ。ら。ん。と。定。よ。その。子。の。和。田。殿。の。胤。ろ。う。た。れ。ど。も。養
育の恩。養。の。実。子。不。異。る。と。て。不。便。の。ゆ。え。ひ。ろ。日。來。ぬ。他。ど。と。ひ。ろ。け
わ。く。法。師。お。せ。よ。と。い。ひ。れ。る。この。戒。刀。と。あ。り。し。は。つ。つ。推。量。れ。の。あ。ま
か。ひ。も。る。た。魔。入。ん。久。後。さ。も。憑。く。と。殺。す。残。を。賽。と。い。ひ。残。わ。り。べ。と
お。ひ。ろ。が。眞。土。の。首。途。母。も。子。も。あ。る。道。小。と。突。つ。け。刃。の。あ。る。の。牽。出。物
截。味。の。や。ど。試。さ。れ。と。千。騎。萬。騎。の。敵。軍。を。破。靡。する。大。刀。月。も。子。は。え。よ
風。々。奈。麻。余。と。大。の。甲。斐。又。る。く。そ。の。こ。は。林。雨。れ。凍。た。と。今。ら。い。お。ひ
ひ。せ。が。解。る。り。致。それ。ろ。あ。ら。ぬ。う。編。の。こ。く。と。か。れ。難。懸。ふ。ひ。あ。ら。ん。と。く
足。ら。ざ。り。し。言。ま。ふ。伸。も。竭。さ。し。び。苦。し。た。宵。を。精。せ。よ。と。い。ひ。長。く。沈。吟。し

日本書紀卷之...

ころくも解せむひめり法師ふせよと云ひ。このころくもははるもど
 刀剣を賜ふと云。殺るる世間。武夫の子は竭ぬべし。願ふ人の口もふは
 一旦この子と遠離て。徒ら生るや。不口然んとして。如此と云。おけ多ひは
 ろる。尋みる殿のころゆ。可憐命を指あり。物体あるは。まや柱。こころ
 うち任。潜びく。生させあへ。と勤ま。隠れ。掉。か。才。勝。子。ゆ。判。ま。さ。ん。
 さもありぬ。げ。た。と。る。が。う。雨。夜。の。月。と。暗。く。う。ぬ。え。と。聞。て。の。ろ。共。小。吾。信。ち。
 さ。ん。我。が。い。さ。る。さ。そ。ろ。あ。の。滅。忠。は。羞。く。こ。が。子。を。頼。む。舊。里。に。お。て。め。り。て。
 夫婦が中の子ともん。の。健。人。と。あ。り。て。志。氣。あ。る。の。ろ。母。が。う。養。え。
 の。ろ。心。頼。よ。告。く。武。夫。の。八。十。う。ち。川。の。流。ゆ。え。は。時。辰。や。ち。ら。ぶ。く。劍。刀。名。を。
 揚。親。と。顯。せ。と。如。此。の。う。ち。我。傳。へ。く。又。そ。の。性。の。純。く。く。鳴。呼。る。人。小。
 かりる。う。ち。の。父。の。さ。ら。う。め。の。い。わ。ぶ。と。美。の。又。の。も。こ。が。う。も。必。さ。る。と。さ。

あ。る。よ。物。成。後。我。よ。も。え。ぬ。り。桃。く。洩。る。ぶ。こ。れ。の。ろ。氣。憾。ま。ん。怒。り。
 秘。て。よ。と。祝。示。せ。る。葉。子。の。目。と。拭。ひ。ぬ。く。う。ち。思。召。せ。良。人。ゆ。も。そ。の。ころ。う。
 ぶ。さ。て。い。さ。る。入。ぬ。き。の。ぶ。げ。た。と。誓。と。さ。ま。ら。う。ち。点。張。こ。と。ゆ。め。く。安。堵。さ。り。
 さ。ら。の。像。見。と。こ。は。ん。と。て。画。の。底。を。搔。撈。り。数。の。十。枚。り。七。枚。り。包。一。金。と。そ。が。
 ち。小。路。費。ぬ。せ。よ。と。こ。ろ。う。さ。れ。の。き。ぶ。く。辞。ひ。く。や。う。や。く。小。帯。の。間。へ。収。め。う。
 ち。用。た。こ。の。木。曾。殿。の。お。ん。旗。を。盛。分。捕。志。多。ひ。一。袋。後。世。に。料。ゆ。ら。く。
 ち。取。り。秘。お。た。つ。こ。の。や。め。く。こ。ろ。さ。る。が。こ。ろ。た。心。の。つ。た。り。や。せ。ん。と。さ。て。
 一。筆。送。さん。と。く。右。の。小。指。と。啞。碎。た。件。の。指。は。血。と。跡。入。り。思。召。せ。る。と。言。せ。し。ま。
 長。又。仗。友。垣。結。へ。こ。の。我。の。あ。る。の。の。君。へ。四。海。皆。兄。弟。を。勉。め。し。し。こ。の。言。こ。
 卷。こ。め。く。葉。子。の。遺。と。て。又。小。戒。刀。と。り。揚。ぐ。臆。は。推。立。く。こ。の。こ。の。乳。母。と。

既なる丸なるゆの第一なる養親の記念に田満仲の遺物とて源家よ
 よの宝刀のまがその説く莫邪の玉と截龍を辟くこと
 彼を試さば行成りくその能とあらん今面ありあろうこと子
 まげまといひつ刃ととりて腹へさすと突かれこれいと騒ぐ葉子と
 ある立首と推禁と深獲に屈せし息と吻死をば死す時死すま
 まるゆの恥ありといゆへ人の金るまと言のまをひめりて
 勇もたぐ名もるくハ恥ぢく死せざるべし粟津乃原の敗軍に
 勢竭く生拘り君が黄泉の俱ぬゆき仇か入るは勇と寓く形死せよ
 形死す子の闇の迷る煩悩の犬を送り月日荒き糸を南柯の夢に
 知る二十年の非威や三教具足の智識をその俱利伽羅の戒刀を
 とれをゆりま丸と激すともゆるる阿容と存命と謙と驥と恥と

累後におりや美盛ぬ親子が命成さんとてゆれたる大刀なるは
 今とゆい由鮮とびく阿三丸と落し遣らば口恩を小負くこの
 子が入るとるんゆいよの成徳よし幸ぬく恙るく人のまわす才
 長く親の智勇と宗嗣とも木曾殿の落胤とて鎌倉殿小弓と亦
 係するとあらん孝もあらざる也却て祖の名と汚さん只つた
 ぬ成実の父ととひとりてその弟の武勇世に召入るる時あは
 勇又矯ゆとて忠孝節義を宗とて親又仕君又仕功成名遂身退
 けりて後木曾殿の落胤と入るるも終く世に恥るるべし
 紫草齋くハ徳のあやまちるんこと誠と母が肝膽この外に
 程とるは葉子とて紀憶して告ぐハ徳とて教べん海
 木曾殿と成盛ぬそのこの良人豊六とやん一身死して三個の
 あり

歳ゆくゆく月の昏とさるる。いざ我幸といふべし。又只不幸といふべし。
塞公羽が馬牧現ふ。いふもさるる。今やある。あつらふ。いざ我周旋。
後一人とく。輒くさる。出さる。折ゆ。く。背門の密木の。間。
間ふ。と。起ぬ。の。准信とせ。びや。とい。そ。か。声と。吻息。流。下。無。流。る。鮮。血。
浸。衣。の。色。は。の。裾。野。と。深。る。せ。り。葉。木。の。伊。每。辱。さ。と。哀。し。の。如。か。の。
る。袖。の。雨。乃。ふ。り。ぬ。る。和。子。の。う。こ。が。三。火。刺。命。ぬ。も。う。て。子。三。と。う。ん。さ。ら。
さ。ま。ら。う。う。年。を。経。く。物。の。こ。ろ。の。つ。た。ぬ。り。世。の。息。な。り。天。離。る。鄙。の。住。
居。の。こ。び。一。さ。ふ。る。形。ろ。た。又。の。虫。の。父。恋。一。と。く。る。た。ぬ。り。況。や。故。不。先。ま。ち。
ぬ。ら。その。蔭。成。仰。た。て。木。晚。茂。ぬ。こ。け。濡。る。露。は。袂。の。朽。ぬ。べ。水。傳。ふ。
後。ふ。ら。尼。と。る。り。て。も。存。命。と。科。戸。の。風。の。を。り。く。ぬ。後。り。成。ゆ。母。に。さ。ら。の。う。が。
ぬ。は。馬。怒。く。辱。く。息。を。屈。む。上。の。ま。が。と。も。わ。り。う。ま。り。の。を。栲。繩。の。た。が。か。こ。

別と我假寐の夢。いふもさる。今を一世の故別や。母清前の臨終ふ。
是多のむや。是多の人と。起して。も。現る。再。寐。せ。俣。稚。児。を。抱。え。揚。る。も。力。る。く。
鞠。絵。が。ほ。と。り。へ。さ。あ。ま。れ。の。引。著。て。目。を。睜。を。賢。愚。の。差。の。り。と。の。か。と。も。
形。貌。の。父。と。母。は。直。子。と。く。親。は。有。さ。り。の。病。病。の。致。と。と。さ。ら。わ。り。う。ん。
け。の。り。て。く。こ。が。魂。影。躬。ぬ。そ。く。く。力。を。戮。一。武。勇。智。勇。各。の。実。父。の。と。く。志。氣。は。
養。父。の。如。く。替。力。の。母。は。十。倍。せ。は。社。士。と。る。さ。と。や。り。巴。ん。老。う。ま。と。て。鞠。絵。が。
自殺。と。あ。ひ。う。く。和。田。殿。留。め。る。も。と。も。そ。か。ま。あ。う。は。う。由。り。て。又。後。却。り。と。
る。一。旦。艱。苦。の。街。衢。は。走。り。く。その。助。骨。を。固。せ。ば。の。意。見。ぬ。勇。ま。と。り。の。い。し。
さ。の。い。ふ。人。の。常。言。小。三。の。骨。を。折。く。後。良。天。と。ち。の。か。と。い。ふ。こ。の。あり。そ。
組。の。実。父。の。像。見。の。戒。刀。の。養。父。の。記。念。両。の。う。う。血。小。流。る。母。の。記。念。心。と。ま。し。
た。ふ。と。傷。口。も。残。さ。り。入。り。く。五。臟。を。脛。を。引。出。を。隻。も。小。こ。が。子。の。遺。骸。い。て。

目口をこらば後り入る鮮血は噎く泣叫ぶ胸前楚楚と搔合て乳母はこり入
投退く俯ゆつゝ死てなり。勇婦の寢期に目さすうた朝絵が子言
母屋へまきけるるめもヨウウウぬふそまきとて母屋へ借とらまき入る
まきとて日へそや暮と窓より漏る夕月の影明くさせと遠迷へは葉
鳥夜小追心持して夢現の境とまきとて只生命を仇ぬせしと
気成激しくやん戒刀の血を拭ひ朝納めく腰は懐紙を推くこて朱
漆する阿三九が口のめぐり拭ひ去るよ泣ゆるせび息もせびこ
いふと四月うち騒けと緯急ゆくとぬ抱ぬ違るるこがやん北月小肩つ
揺場と彼白旗と背ゆは投掛て引繰り涙をこ向の水もと朝絵が死
骸とふし拜と裾をひくく引あげて走り去るんとはる後小背の紙門推
風く葉ひ等とゆとむん吐嗟とむりりんるん見別人るんある

和田長盛へ袖りく掩ひし燭と抗く朝絵が死骸をつくとつ頻る歎
息一勇へ必死もちりと聖語宣うるるここの婦が長小勇む心操ら
とく老りらさられ稚子が質弱病物の怪つけく貫り人の排擄とゆる
ゆ堪び母が斃死の痛くは小彼本親子と三浦へ遠離生三母さるんや
とく俱利伽羅の大刀ととらせし舞きめぬ小武を激する寸志なると
時ふとては呉王が伍子胥と與る属婁の劍は似たり。此れがこれか
りつて可憐勇婦と殺まよある。嗚乎恨り。あやまちぬ。志るは
朝絵が送言るりとの阿三九をおく支りしては既親子の身を
結び。長盛が武士の死くの後妻朝絵は何れりく面を合さん
その子存弱不具とも。一知命の地と列考。生涯安く養ひるんや
とむびくはとせぬ態とく物んとまきば長盛声をやり立と。阿三九を

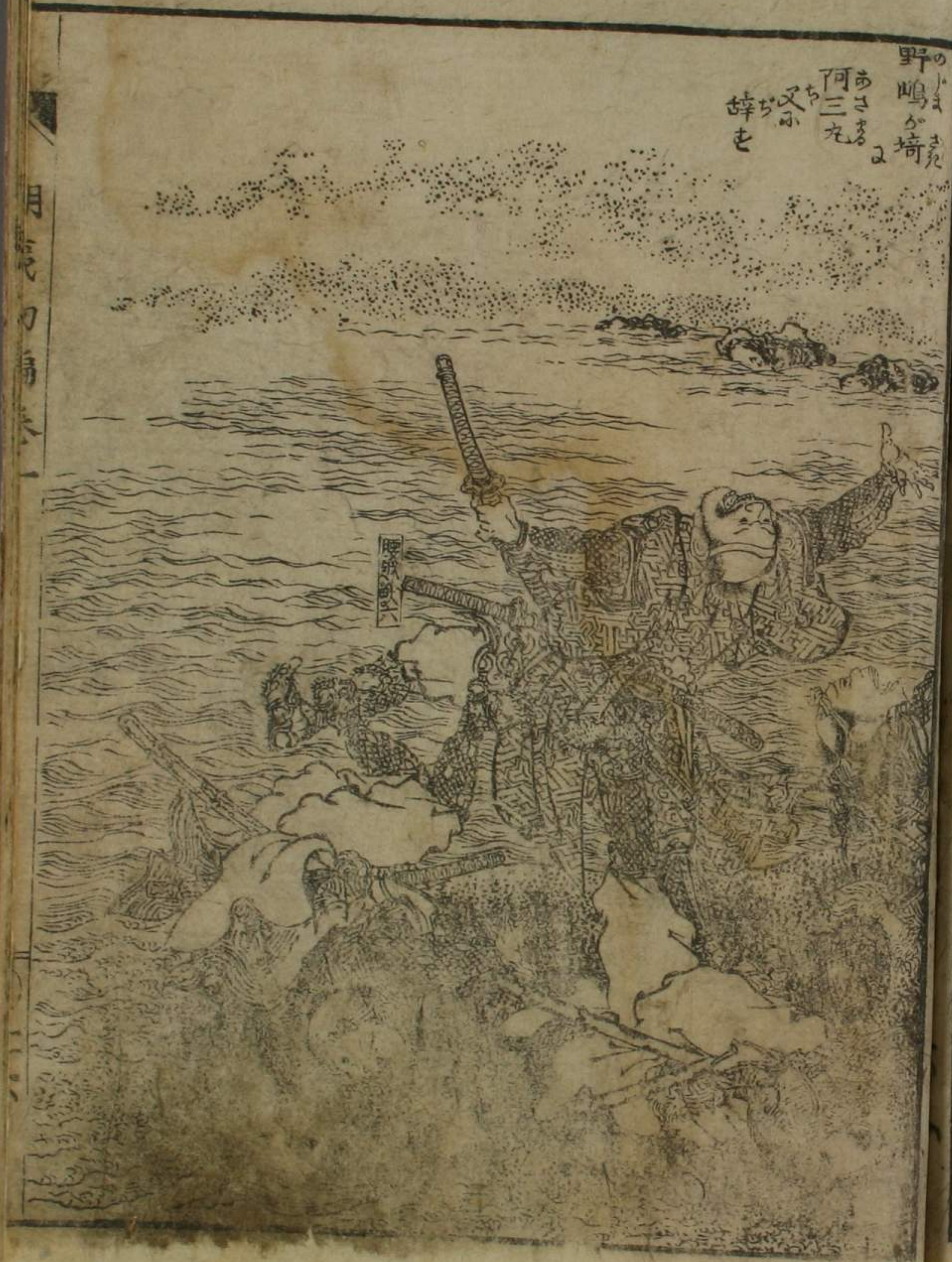
コト子入汝乳母の分際ゆく。理多く俱しく逐電せし。是則盜賊あり。その身ふ
崇るるらんや。彼推とらんと。敦園ハ唯と爲て婢們群こと。支まら引戻さんと
さる。後室内俄頃又陰と。吹入る。風毛骨と豎て。障子亮隔鳴と。こめ死
まへの。葛んとせし。婢們ハ。こもあつで。踏と引く。ささく。りろ共。尻
居。小櫃と轉輾ハ。羨盛やましく。焦燥と。燭搔遣り。衝と寄て。捕んとさる
腕。癱麻と。ささく。雲。或。翹と。忙然と。その隙。又。葉ハ。背る。阿三
丸と。又。揺揚て。閃りと。下る。縁。翹より。庭の。木立を。潜脱と。颯と。推と。く。片
折戸。出ると。前面と。門の。鎖。ぬ。回ふと。去去ぬ。

初輯第二

月夜乃竊立鳥
鶏鳴の野島船

却脱乳母葉ハ阿三丸を脊負つ。月と燭と。さる。後。小。腹。裡。と。お。り。

中。村。小。壺。の。濱。辺。と。安。房。上。懸。へ。こ。こ。毎。日。あり。と。豫。め。供。と。も。
彼。知。ハ。下。り。近。近。り。昔。昔。帆。る。猪。あ。ん。む。君。所。の。人。と。追。葛。末。と。引。續。
さ。し。る。が。わ。ぬ。る。れ。雨。る。金。澤。か。る。野。嶋。へ。い。ゆ。が。追。め。あり。と。も。こ。ろ。る。
つ。て。輒。く。前。面。へ。と。び。と。忽。地。と。尋。思。し。東。と。投。く。喘。足。信。し。て。
ま。る。あ。り。背。小。兒。と。載。し。む。い。と。と。去。く。疲。勞。果。て。空。の。運。果。敢。と。を。
辛。く。子。二。の。丁。件。の。海。辺。と。来。と。と。真。夜。中。の。ま。不。恥。と。出。さ。び。
一。碗。の。白。湯。と。も。を。ち。や。と。お。ひ。浦。の。竹。屋。の。戸。を。敲。く。み。と。く。り。の。
意。せ。び。只。野。の。声。出。る。り。せん。と。と。破。馴。し。松。火。今。宵。の。あ。い。し。豆。煮。て。
あ。い。の。枝。又。夜。露。成。御。世。や。が。て。株。と。尻。と。う。けて。さ。ん。と。三。丸。と。背。り。
搔。ち。る。月。の。光。と。と。ん。あ。り。ん。と。と。睡。る。か。如。く。死。せ。り。か。如。く。揺。え。り。て。も。
息。も。せ。び。動。を。も。せ。び。月。月。燦。と。と。る。く。み。術。の。汀。渚。と。る。泡。と。共。消。消。く。



野の
鳴が
崎
あさ
三
九
又
不
辞
を

月
長
の
巻
ノ
一



北
山
入
新
巻
ノ
二

うらめしく声へて涙の夜の路。陽とお可入且と目と拭ひ遠迷く出く。
 茶餅と唯悔ひるせぬ。一の儘又輝絶る亡母君の冥府より。憑ひ
 る死にこそ我一の只憎一とのこもむまじき。彼仰ふを憐るとも。あゝの殿が
 ゑひはしく留めさせむひる。そが随彼如く留りるが又せんまじき。ありるん
 の死別とてまじき。悔一も。走り出て今又又。昔へとての還まじき。昔里へ
 ゆくも。進退まじき。小究りぬ。只亡骸をうた抱き。波城被死て水層とるん。
 ころく。そまじき。海早かり。鳩尾些煖ゆ。左の魚の肢むりたる。旅の如く
 かせぬ。あたる。浦の夜風。又中む。あまの救る。よる。あまの。彼如く。門を
 おく。雨と。と。答屋の軒端。又立より。又戸と鼓を。あまの。宿まじき。
 求まじき。地方の法令。宿を借まじき。前へ。後。入る。天明く。来まじき。
 ともく。小再て。そのあまの。葉の鳥乱。と。人。死。う。み。り。世。死。た。り。

わりて涙の泉掬ひあま。む。方へ。や。中。氷。る。阿。三。九。と。懐。へ。袖。と。あ。ま。の。
 抱。ひ。舟。の。音。小。磯。那。鳥。友。ま。じ。き。む。ら。く。と。と。せ。て。入。る。ま。じ。き。
 津。波。の。鼓。又。合。ま。る。松。の。琴。遠。寺。の。鐘。の。音。添。ひ。て。諸。行。を。常。と。告。ま。じ。き。
 長。汀。曲。浦。の。羈。旅。の。天。ま。じ。き。残。碑。く。羽。目。あ。ま。の。比。も。秋。の。る。り。ゆ。て。夜。も。長。
 月。の。影。寒。ま。じ。き。玉。兔。へ。西。へ。波。城。く。た。く。ら。張。の。迹。又。ゆ。く。雁。の。羽。風。又。降。る。
 霜。も。東。も。ま。じ。き。か。り。ふ。け。り。浩。如。く。義。盛。が。雜。色。腰。越。獸。六。郎。と。あ。ま。の。
 野。兵。十。人。あ。ま。の。あ。ま。の。葉。子。と。追。蒐。ま。じ。き。通。ま。じ。き。と。と。ん。て。天。
 燈。残。し。る。蕉。火。と。投。捨。て。皆。失。ま。じ。き。追。取。卷。獸。六。祀。る。声。を。あ。ま。の。立。甲。夜。に
 主。君。の。仰。受。四。面。四。境。へ。部。ま。じ。き。谷。七。郷。の。出。口。へ。ま。じ。き。村。七。里
 の。濱。港。を。法。捕。ま。じ。き。ま。じ。き。ひ。け。ま。じ。き。荒。後。の。松。又。鳥。帽。子。首。隠
 せ。と。尾。の。裸。嶋。ま。じ。き。ま。じ。き。良。と。読。ま。じ。き。假。名。澤。の。う。ま。じ。き。追。結。ま。じ。き。

まゝく逢へん世活よのろろ縁もか乳の人馬士秘伝よのむともの山獄さ
 せび水の中を刺截おろしあはれ入る刺著苧被てひがらゆせん和子と遠
 去く縛をぞく受よと聞たり豫く先刻の葉子へるくは逃もせだのる
 亦鞠絵苧苧の遠言重しおろたこの身は抱えと命おけて郎君とさうく
 預りたる女子むとりと大勢く引立ゆくとも嗚呼るるまやとのりせと
 あつと獸六の眼尻睨り足踏鳴じささほざふり舌長し彼縛よと教團の
 うけりらると野兵とも衝とあせあつと稚見と大集ひととんと葉子が懐へて
 突へく引出来たる海遊とささとて推考れは突退蹂躪らるる既髻へ素き衣
 破れ轉輾ともるほ放きば挑争ひ泣叫ぶ声又引且く一國の遊魂西より
 閃きたる糾まるが如た阿三丸が旬月のほとりへ礮と落ちて懐へるとささ
 不思議るる息絶し阿三丸忽地甦生あつと血気力量ヨメ病るる三歳乃小
 児は他で葉子小抱さるるが左右の巻は働し舐掛さる兵士おは撥退るわう
 ちとちと撞と投著さるる既届ぬ野兵おとち小隨て助斗り起ての鈴聲
 携り浪び象棋倒の流足終つて立ゆるけりやめる奇特小葉子へち
 驚き且泣びこごと正しく母苧苧の霊魂和子と衛りあひぬささ枯木
 花を開く朽る條も実成結が現有るる既験奇特る久後を衛らせ
 多飲しやと三男と立前面お呆る獸六の武者戦て力鞠おは杖杖骨唾子と
 ついてくる小児は他げられた力量早技頑くは実の阿三丸るは推量とく
 是能見坂の野執るる侍後川の氷虎るるんこと眉毛お唾と引つ流
 鼻禪とも固く嵐の油煎涼るるてを准依せひ尻の戸溝へ堅固えおれや組ん
 と堂を二三四つち鼓じ左右の膝よひ蹴り力足と踏蹴とさ向んとする

不思議るる息絶し阿三丸忽地甦生あつと血気力量ヨメ病るる三歳乃小
 児は他で葉子小抱さるるが左右の巻は働し舐掛さる兵士おは撥退るわう
 ちとちと撞と投著さるる既届ぬ野兵おとち小隨て助斗り起ての鈴聲
 携り浪び象棋倒の流足終つて立ゆるけりやめる奇特小葉子へち
 驚き且泣びこごと正しく母苧苧の霊魂和子と衛りあひぬささ枯木
 花を開く朽る條も実成結が現有るる既験奇特る久後を衛らせ
 多飲しやと三男と立前面お呆る獸六の武者戦て力鞠おは杖杖骨唾子と
 ついてくる小児は他げられた力量早技頑くは実の阿三丸るは推量とく
 是能見坂の野執るる侍後川の氷虎るるんこと眉毛お唾と引つ流
 鼻禪とも固く嵐の油煎涼るるてを准依せひ尻の戸溝へ堅固えおれや組ん
 と堂を二三四つち鼓じ左右の膝よひ蹴り力足と踏蹴とさ向んとする

程小らまき沙磔ふけり。死居の種と轉輾び吐嗟と叶びく腰と相面を
 撃てたて起り。あふ足場がらうけまが。高子の當りゆ水漏る況や汝が願の
 血うち砕く手浮とるまが。生拘んといと易く。其如る退そと沙うち拵ひ刀
 の目打と舌のく濕。又懲まふ立向へ。阿三九信と疾視て。おれ獸六
 無礼へ母の自殺のこまを。今又父の使戎阻く。不孝と醜まべうもあふ
 後ど。こまのヨヲ病の衣破りて。早晚又は愛を失ひ一旦幼氣戎受する所。以る
 ぶせめふとて。しもぐ一功とる立びま。たりのり。あつて。却親のあし過失を。
 世に廣うまるのめ似たり。乳母夫婦戎親と。憑まを。苦中の苦戎喫。
 人の中なる人と成り。武士の数ゆも入るんと。死は再會を許させぬ。おん過
 失戎人ゆも。せむせむ。母不孝の罪科戎贖ふ。まがとるりぬべ。只今仰ふ
 隨が。亡母の志。廻父のあんるる。罪無り。く。い。の。は。と。口。つ。り。

よくまをせといつて。腰試獸六のま。く。是。舌と吐た。三才やま。おれ
 ぬ。九どのが。棄るる。辨舌のあ。ま。只物が。牧怪物のり
 と。後難道。と。か。と。も。野兵。既。怒腹。で。徳
 一。か。と。勅。これ。毛と。吹。海と。求ん。より。ま。り。あ。り。て。あ。け。加。勢。と
 乞て。復。ま。る。ん。正。さ。う。敵。は。背。と。ん。せ。て。逃。う。ら。ん。と。あ。の。の。れ。不。續。け。
 と。逸。足。知。く。跡。と。も。ん。ぎ。て。ま。ま。る。ゆ。そ。一。塊。は。倒。れ。る。野。兵。は。これ。と。ま。り
 一。町。め。ま。り。先。に。あ。る。獸。六。と。信。と。な。る。戎。の。子。戎。抗。扇。と。ま。り。死。洲。崎。金。澤。の
 入。江。と。遠。り。藤。倉。の。う。え。落。る。戎。の。隊。の。頭。人。腰。試。氏。獸。六。郎。と。な。る。の。時
 目。欽。誘。り。ち。共。ふ。り。る。ん。結。つ。け。る。と。あ。り。て。む。く。と。味。鴨。の。騒。ぐ。が
 如。く。逃。亡。さ。り。こ。の。時。既。は。天。の。明。つ。台。屋。の。門。戎。開。る。か。ら。件。の。る。体。と。え。し。捕。入

舟のりるは浪とて笑ひて乳母のちとく眉ともしらなむ。かど彼の小禪ひつる安
 房をて船代借るといふ後の崇のちとく浦人志入既よまると小児の勇力
 古と巻て凡入る位とてとひく。かど推辞るまを名屋の内へ招て入れり
 敬待して早飯我勸る船は船の櫓を建管成とり入を準備とてくも敷正八舟
 人志のひびく。主後我杖乗せし帆と揚櫓と操つ野島が埼我漕せし今我も
 順風なりと波上平はて船のまるまると速う。さる船は阿三丸の追捕の兵隊六
 舟のちとく。勇るるのちとく。只尋常の小児の如く船中おぼび敷き輝みる
 記憶さるるが如く。これ健るるのちとく。後さるまのふは他ざりける。葉の此とて
 彼成るる不可思議なる比目靈魂の冥助小よゆ久後いゆく。感涙と
 棧の只彼君の菩提と給して。向て死安房へ舟の寄るまを。仏名とてぞわたりける。

朝夷巡嶋記全傳卷之一終 村田

